

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

三好市立芝生小学校  
「学力向上実行プラン」

- 主体的・意欲的な学びを創る活動の場や内容の創意工夫
- 書く・話す活動を重視した言語活動の充実

学力向上推進員 宇山 知恵美	委員 校長 豊田佳男 教頭 清重 正俊
	生徒指導主任 大岩 教泰 研修主任 三間 由美
	推進委員（低）高崎まほら 推進委員（中）濱口 久弥 推進委員（高）永山 睦子

校長

豊田 佳男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】 管理職による授業観察や研修など、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきて、与えられた課題は、ほぼ全員が提出することができる。真面目に学習に取り組んでいる。 ○聞き手・話し手を意識した活動ができるようになり、読解力・表現力が高まってきている。 ●長い文章を正確に読み取ったり、要点をおさえ、まとめたりする力が十分に育っていないのが課題である。	・学習規律を守って、落ち着いた環境で学習に取り組むことができる。 ・発達段階に応じて、400字程度の文章を正確に読み取ることができる。 ・既習の漢字の8割以上を読んだり、書いたりできる。	・チャイムを守って着席し、教科書などの7点セットを準備しておくよう、声かけしたり掲示したりし徹底する。 ・ポイントとなるところにアンダーラインを引かせたり、箇条書きや色分けをさせたりする。 ・主述の関係や修飾・被修飾の関係に、丸や四角で囲みをつけて読み取らせる。 ・音読、読み上げ計算を毎日1回はする。 ・ペア学習を取り入れ、話し合い伝え合う活動を増やす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを使い、自分の意思を伝えることができるようになってきて、自分の考えを言葉で伝える場面が増えてきた。 ●自分の考えをもち、友達の考えと比べながら、自分の考えを見直したり、表現したりすることに課題がある。 ●自分の思いを言葉や絵・図を使い、順序立てて豊かに伝えることに課題がある。	・友達の考えと比べながら自分の考えを持つことができる。 ・自分の考えを、伝えやすい方法・手段で伝えることができる。 ・習得した力を活用しながら、より深く学ぶことができる。	・ICTや黒板を活用し、自分の考えと友達の考えを可視化し、比べさせる。 ・話し合いのしかたを提示する。 ・ホワイトボードや付箋などを効果的に活用した活動を取り入れる。 ・同じところと違うところに着目できるように発問の工夫をする。例「別の言葉で言い換えるか？」など			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○振り返りの時間の確保により、自分の学びに気付くことができる。○家庭学習のルールを守り、自主学習に進んで取り組むことができる。 ●深めたい学習を選択したり、友達のやり方・考え方を取り入れたたりして、学習計画を立てて取り組むことに課題がある。	・月に一度、苦手な課題を自主勉ノートで復習することができる。 ・自分の成長に気づき、「次はこうしたい、もっとやりたい」とさらに学ぼうとする意欲を持つことができる。	・よくできている自主勉ノートを背面黒板に貼り、紹介する。 ・拳手やカード、ワークシートなどで、毎時間ふり返りを行う。 ・めあてとわかったことを確認し、思ったこと、気づいたことを段階を踏んで詳しく書けるようにしていく。			

# 令和4年度 学力向上ロードマップ

